



目次

持続可能な発展への確実な歩み(第一回合同調整委員会の開催)	1
多文化交流から学ぶ	2
サラチュパ村における活動のための団結	2
モデル集落での調査	3
インタビュー:「国として考える」	3
インタビュー:「平等な社会を作る」	4



国際協力庁(AGECI)代表アナ・パトリシア・ロサダ氏、
JICA エクアドル氏所長 山口三郎氏、
チンボラソ県知事 マリアノ・クリカマ氏

持続可能な発展への確実な歩み(第一回合同調整委員会の開催)

チンボラソ県の貧困削減のためのプロジェクト、Minka Sumak Kawsay の合同調整委員会による、最初の会議がキトで開かれました。

会議では、リオバンバ市、コルタ市、グアモテ市の6つのモデル集落での調査等、プロジェクトの実施計画の進捗状況について発表されました。

また、6月にプロジェクトの運営指導調査に訪れていた、JICA 本部の国際協力専門員である永代氏もこの会議に参加しました。

永代専門員は、JICA がボリビアにて実施中の、当プロジェクトと似たプロジェクトの経験を説明し、運営指導調査の結果発表と、チンボラソでの活動展開の成功のための助言をいくつかされました。

「コミュニティの生活改善のためには、持続性という言葉がキーワードとなります。良い影響を確実にするためには、コミュニティの人々自身がプロジェクトの核となるという自覚を持ち、態度を改める必要があります。持続可能な開発は、エクアドルの人々自身のイニシアティブによってのみ、達成することができるのです」と、永代専門員は説明しました。ベースラインを知るための調査を実施し、二年目から試行事業を実施する予定となっています。

多文化交流から学ぶ



デルフィン・アウカンセラ氏
教育省チンボラソ県二言語教育事務所長

教育省のチンボラソ県二言語教育事務所は、同県スペイン語教育事務所と共に、プロジェクト Minka Sumak Kawsay のカウンターパート機関の一つとして、活動しています。

二言語教育の県事務所長デルフィン・アウカンセラ氏は、このプロジェクトは「生活、教育の質の改善」を目指すための、協力活動を始めるための窓口となるだろうと確信しています。

アウカンセラ氏は、「その学習と活動の各段階では、インターカルチャーのことも言及されるべきです。それにより、民族の違いに関係なく、全ての人々が協力するために参加していることが分かります。そして、そのことによってこそ、国の経済的、政治的、社会的、文化的発展と、社会の上部構造を進展させることができるのです。」と言います。

また、「プロジェクトにより平和・自由・民主主義、参加の機会、が存在するインターカルチャーが実現されれば、先住民であろうとメスティソであろうと、問題なく平等なんだと言えるようになります。」と述べました。

サラチュパ村における活動のための団結

グアモテ市のサラチュパ村は、チンボラソ県の貧困削減のためのプロジェクト、Minka Sumak Kawsay のモデル集落の一つです。

ラモン・レマ村長は、「このプロジェクトは、この地域の人々にとって重要な教育、保健衛生、農業部門を改善することになるでしょう」といいます。

また、「私たちはプロジェクトに必要な全てに対し、手伝います。JICA とともに働くために集まり、組織化し、話し合います。」と述べました。

レマ氏は、子供や大人の健康と、必要な設備の整っていない保健所が改善されることを望んでいます。そして、そのための開発の仕事を一緒にやっていくことに期待を示しています。



サラチュパ村

モデル集落での調査

インタビュー：「国として考える」



ベースライン調査の一つ、グループインタビュー

プロジェクトの活動は、実施計画に沿って予定通り実施されています。現段階では、各モデル集落の社会経済状況に関する情報収集を目的に、ベースライン調査を主に実施しています。

まず、村の役員会にインタビューし、基本情報の調査を行いました。また SIISE が出している社会経済指数を取りまとめています。次に、モデル村落において、農牧生産物、ジェンダーと生活についてのグループインタビューによる調査が行われました。

更に、村落の一般的な情報や、農牧生産、教育、保健衛生、環境に関する状況を知るため、住民の参加により各集落の下絵が作成され、また各農村 20 家族に対し、アンケート調査が実施されました。

同様に、実施計画に基づき、カウンターパート各省と関係機関が参加するプロジェクト運営委員会と、合同調整委員会が設置され、更に農牧生産・教育・保健衛生・環境分野及び、運営のためのそれぞれのワーキンググループが設置されました。

現在、PCM 手法の日本人専門家が派遣されており、主にプロジェクトの普及員とカウンターパート、及び関係者への研修を実施する予定であり、その後、6 つのモデル集落にて PCM ワークショップを実施する予定となっています。



イレナ・シュドゥット

農牧省(MAGAP)の国際協力部門の顧問であるイレネ・シュール氏は、プロジェクト Minka Sumak Kawsay のような、様々な役割を担う機関が参加するプロジェクトでは、信頼関係を持つことが不可欠だと語りました。

「極めて興味深い経験になると思います。このプロジェクトは農村に実際に接していますし、私たちはこのようなプロジェクトが発展し、持続的という目標を実現させられればと、本当に期待しています」と、シュール氏はいいます。

そして、このような事業のあり方に更に言及し、「これは国の事業として考えるべきであり、誰かが主役になって目立とうとしたり、自治組織となって前に出ることは忘れるべきです。本当にインパクトのある活動をするには、一人では無理だからです」と述べました。



ベースライン調査の一つ、インタビュー調査

インタビュー：「平等な社会を築く」

チンボラソ県スペイン語教育事務所は、プロジェクト Minka Sumak Kawsa カウンターパート機関の一つです。

所長のアデラ・モスコソ氏は、「貧困をテーマに、自発的に複数の機関が集まり仕事をする事と、日本という国が兄弟のごとく、この問題に関わってくれることに喜びを感じます。」と述べました。

また、「解決策を探るために団結する時が来ました。当教育事務所は、そのためにこのプロジェクトに参加し、“貧困や非識字者の削減という目的を果たし、県の発展を成し遂げ、平等で正義のある、愛にあふれた質の高い社会を構築すること”を目標に取り組みます。つまりそれは、多様な現実の中で、団結する必要があるということなのです。」と強調します。

プロジェクトのカウンターパート機関は、人々が質の高い人生を送れるよう、更に生産性のある社会を作ること望んでおり、そこでモスコソ氏は、「スペイン語教育事務所は必ず、その必要な役割を果たします」と述べています。



アデラ・モスコソ
教育省チンボラソ県スペイン語教育事務所長

この広報誌（和訳版）は、2ヶ月ごとに、スペイン語とキチュア語で作成され、関係機関やモデル村落などに配布されている、プロジェクト広報誌「Minka Sumak Kawsay」を、和訳したものです。

Proyecto Minka Sumak Kawsay

住所: Primera Constituyente y Carabobo esquina • 電話: 593 3 2961 516 • e-mail: proyectojica@chimborazo.gov.ec

日本語ホームページ: <http://www.jica.go.jp/project/ecuador/0800613/index.html>

スペイン語ホームページ: <http://www.jica.go.jp/project/ecuador/0800613/spanish/index.html>

キチュア語ホームページ: <http://www.jica.go.jp/project/ecuador/0800613/quechua/index.html>